12月19日：壊機現象

数分前。

（お、ラッキ～。とはいえこれ牽制かな？ だったら両手飛ばしてくればいいのに～？）

戦っている相手……ルストなるプレイヤーが複数の戦術機を切り替えて戦っていることは、他のGUN！GUN！傭兵団からの通信で分かっていたことだ。故に偶然とはいえ相性有利を取ったエクレアは終始攻勢で仕掛けつつも、戦況を一気に覆されかねない戦術機の換装という一瞬を警戒し続けていた。

（本人がちっちぇ～んだよなぁ……ヘッショ狙っても防御か回避されるし……ちびアバターってこういう時有利だったのか～）

小柄、というキャラクターメイク上の個性が有利に働くこともあるが、当然不利に働く場面もある。ことこの戦いにおいては、頭部が小さいが故に防御面積の小さく済むことや、そもそもの小さい的(マト)が高速で動き回るので狙いづらい、という要因がエクレアにとっては不利に働いていた。

全体を見れば終始有利ではあったものの、エクレアとて楽な戦いをしていたわけではない。戦術機越しのリコイルコントロールに実は苦心していることに加えて相手の本体である生身が小柄かつ自身と同じ瞬発力に優れ、なにより自分以上に戦術機に精通している。

一瞬たりとも油断ならない相手ではあるが……それでも、距離の有利を維持し続ければいずれは詰められる(・・・・・)と考えていた。

……

…………

そして今、互いが鎖で繋がれているという状況がエクレアを段々と不利へと追い詰めていた(・・・・・・・)。

『……！』

『うおぉっ！？』

ぐい、とエクレアの足が強い力で引っ張られる。無論、不意打ちで体勢を崩されては射撃どころの話ではない。そして真っ直ぐ張り詰めた一本の鎖があり片方が引っ張られたのであれば、当然もう片方は引っ張った側だ。不利を被るのは”られた”側だけである。

『……直径10メートル、ミドルレンジが最長射程』

『厄介ぃ〜っ！？』

【施錠縛鎖】はあくまでも対モンスターを想定したものではあるが、当然対人ひいては対戦術機に対しても有利に働く。

特に生身のフィジカルスペックを機巧によって補強可能な戦術機で運用すれば、小柄な少女とてワイバーンと渡り合えるのだ。

鎖によって互いに繋がったことで、距離の概念は鎖の支配下に置かれた。即座に鎖を外すことができない以上、レンジによる有利不利に”綱引き”の要素が加算されたのだ。さしものエクレアも射撃の瞬間に物理的に足を引っ張られては狙いが狂う……まして、非力な少女を剛力へと変える戦術機の牽引ともなれば下手をすれば転倒の拍子に後頭部を強打して行動不能ということにもなりかねない。

対するルストはといえば、足を引っ張られるエクレアとは異なり引っ張る側だ。さらに言えば踏ん張りの根幹となる足を縛り付けられたエクレアとは異なり、その鎖は腕に繋がっている。そして何より……殲顎緋砕(センガクヒサイ)はインファイターだ、引っ張られる……すなわち距離が縮むことは歓迎すべきことだ。

『………！』

殲顎緋砕(センガクヒサイ)と電撃菓子3号＠GGMCとの距離は10メートル、だがそれが上限。

あとは互いを繋ぐ鎖を引っ張り……どちらが先に相手を敗北へと引きずり込めるか。

鎖が張り詰められる。引っ張られたのは………殲顎緋砕(センガクヒサイ)の方だった。

『腕よか足のほうがパワーがあるんだぜ～！』

腕を引っ張られたことで僅かに体勢を崩したルスト、そしてその僅かな瞬間を逃さずエクレアは早撃ちを放った。

発砲された弾丸は射手の力量をそのまま映し取り、必殺の直進を殲顎緋砕(センガクヒサイ)の頭部へと至らせた。

『〜〜〜っ！！』

ヘッドショット。頭蓋を砕くに至らずとも脳震盪(きぜつ)は避けられまい……引き金を引いた瞬間に弾丸が必ずそこに当たると、そう確信していたエクレアは……

『……なめるなよ』

エクレアの脚を封じるために自らが繋げていた鎖という縛りに、さなざら蜘蛛の糸を登るかのように縋りついて己自身を前方へ(・・・)引き上げる事で弾丸を回避した殲顎緋砕(センガクヒサイ)にまず驚き。

『……チェーンデスマッチなら、メタにもならないくらい対策(ぶちのめ)してやった』

前のめりに倒れる寸前、という姿勢の中で脚部ブースターを全力噴射し、そのまま高速で鎖を手繰り寄せながら"直上(しょうめん)"に突っ込んできた殲顎緋砕(センガクヒサイ)にはさしものエクレアとて驚愕で動きが止まった。

『おごっ……！？』

『……勝機』

互いの距離が限りなくゼロに近づいたことで撓み垂れた鎖、その先端付近を掴むことで互いの距離の"上限"を１メートルまで詰めたルストはそのままの勢いで未だ鉄拳たる右で電撃菓子@GGMCへと殴りかかる。

しかし、左腕を盾代わりに殴打を防御した電撃菓子@GGMCは右手に握る銃を撃つ。戦術機の装甲であれば食い破ることが可能な威力の弾丸、距離を詰められたといえど言い換えれば外(はず)しようのない至近距離ということ。

『ナイフキルの距離だぜ〜！』

『……っ！』

狙いは顔面。額であろうと鼻であろうと当たれば即死は免れず、何より回避するには近すぎる。故にルストが選んだのは"当たってもギリギリ死なない部位"に当てて被害を最小限に抑えることだった。

血飛沫の如きダメージエフェクトがルストの頬から噴き出す。頭を覆うヘルムを砕き、頬を抉り、しかし弾丸はトドメを刺すに至らない。

『……ふがふが』

『なんて！？』

エクレアの問いに返ってきたのはアッパーカットだった。

別に破壊属性がついてるわけではないので頬にダメージ判定はあるけど本当に吹っ飛んだわけではなく、つまりすごい流暢に「ふごふご」って喋っただけなのでエクレアは「なんて！？」となった

アッパーされた